

鮮やかな色の七夕飾り

グループホームけーせん利用者らが作製

グループホームけーせんの利用者らが作製した色鮮やかな七夕飾り3本が役場ホールに飾られました。くす玉の下に細長い和紙などを垂らした長さ約2メートルの吹き流しが風に揺れ、来庁者の目を楽しませていました。

7月31日に役場を訪れた同ホーム利用者は、七夕飾りの華やかな出来映えに満足している様子でした。制作者の1人である鳥畑千代さんは「鎖部分が難しかったが、立派にできて良かった」と笑顔で話していました。



県身体障がい者福祉大会会長表彰受賞 町身体障害者協議会員2年連続表彰

町身体障害者協議会の佐々木洋子さん(17区、写真左から2番目)と佐々木ノブ子さん(16区、写真右から2番目)が、7月13日に洋野町で行われた「第60回岩手県身体障がい者福祉大会海と高原のまち洋野大会」において、自立更生者として県身体障がい者福祉大会会長表彰を受賞しました。

洋子さんとノブさんは現在、同協議会の理事に就任され、「今まで楽しいことや苦しいことがあったが、これからは協議会の発展に寄与していきたい」と話していました。



平泉をきれいな花で彩る

第39回平泉町花壇コンクール

8月6日、第39回平泉町花壇コンクール(平泉をきれいにする会主催)の審査を町内19団体・個人の花壇を対象に行いました。

今年は栽培管理に気を遣う環境の中、花の組み合わせや植物の色の配置への工夫から、花壇の設計が向上し、地域の魅力をさらに高めていました。最優秀賞には生育の管理、景観との調和が高く評価された「下達谷総合花壇(5区)」が輝きました。



医療や介護について意見を交わす

ケアする人の夕やけカフェ

7月18日、これからの在宅医療や介護について学び、語り合う場として「ケアする人の夕やけカフェ」を開催し、町内の在宅医療介護関係者など12人が参加しました。平泉歯科診療所の金沢純一院長から「在宅歯科活動について」、医療法人三秋会の澤口真規子管理栄養士長から「高齢者の低栄養について」と題してそれぞれ話題提供。その後気さくな雰囲気の中、高齢者の口腔や栄養について、さまざまな職種の人が思っていることや今後の課題などを語り合いました。



白菊を手向け、先人の冥福を祈る

平泉町戦没者追悼式

町主催の戦没者追悼式が8月10日、平泉ホテル武蔵坊で営われました。

式には遺族ら約100人が参列。黙禱に続き、町遺族会の加藤寛義会長が「全ての人々が平和で心豊かな世界となるようたゆまぬ努力をする」と誓いました。また町内の女声合唱団「コーラスグループ・ファンタジー」が追悼の歌をささげ、最後に参列者が祭壇に白菊を手向けて静かに手を合わせ、戦地で命を落とした先人の冥福と恒久平和を祈りました。



人権の擁護と普及に貢献

前人権擁護員の及川さんと石川さんに感謝状

及川幸子さん(11区)は、平成21年4月1日から9年3カ月間、石川長善さん(5区)は同年7月1日から9年間にわたり、豊富なご経験を生かしながら、人権擁護委員としてご活躍いただきました。子どもたちと一緒に花苗を植えながら、思いやりの心、命の大切さを伝える人権の花運動をはじめ、特設人権相談所や自宅においても電話相談を受け付け、地域の方々のさまざまな悩みや心配ごとの相談に当たられました。それぞれの長年わたる功績が認められ、法務大臣より感謝状が贈呈されました。



平泉の魅力や価値をPR

オリジナルフレーム切手が販売中

東日本大震災復興・平和への願いや平泉町のPRにつなげるため、世界文化遺産平泉の構成資産「中尊寺」「毛越寺」を題材にしたオリジナルフレーム切手が日本郵便東北支社から販売されました。販売を記念して8月17日に町役場で贈呈式が行われ、同社や町関係者ら11人が出席しました。

フレーム切手はB5判1シート(82円切手5枚セット)1,000円(税込み)。県南部地区管内(平泉町、一関市など)55局(簡易郵便局を含む)の窓口で取り扱われています。



遊休農地の実態把握に取り組む

農地パトロール出発式

7月20日、平成30年度農地パトロール出発式が町役場で開かれ、農業委員や農地利用最適化推進委員、来賓ら24人が出席しました。宣言では、出席者を代表して石川文士良会長職務代理者が「パトロールを実施し、遊休農地の発生防止と解消に向けて全力で取り組む」と決意を述べました。

農地パトロールは、農地の有効利用促進のため遊休農地の実態を把握することなどを目的に、町内全域で8月に事前調査、9月に本調査を実施します。

